

脳卒中障害者家族のコミュニティをつくるための家族教室開催

特定非営利活動法人 ドリーム

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2 丁目 13-24 先 地下 1 階 31 番 14 号

助成事業の概要

【目的】脳卒中障害者家族が後遺症への理解を深め、悩みを共有できる仲間やコミュニティを作るために「脳卒中障害者の家族向け 脳卒中講座」を開講。

【日程】第一回 9 月 5 日「失語症を知ろう」(参加者: 20 名)、第二回 10 月 3 日「高次脳機能障害を知ろう」(24 名)、第三回 11 月 7 日「再発防止のためにできること」(22 名)、第四回 12 月 5 日「障害年金と受けられるサービス」(21 名) 10 時～12 時、各回定員 20 名

【内容】前半:「専門家や当事者家族による講話」(専門家による講話・当事者家族による体験談)

後半:「お悩み相談・交流ティータイム」(グループに分かれ、家族同士だからこそ分かり合える悩みや思いを共有できる場。当団体家族会が各テーブルに入り、相談対応を実施。)

【広報】名古屋市を中心とした区役所・社協・回復期病院・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所など約 450 カ所へチラシ郵送、約 890 カ所へ FAX 送信。11/7 中日新聞紙面掲載。

事業の成果

・当事者家族にとって、後遺症やサービスについて正しく知り、家族として出来ることを学ぶ機会や、同じ経験をした家族から前向きなメッセージを受け取り、悩みや思いを共有できる機会となった。参加者は、発症間もない (1～3 年)、悩みを抱えた家族が多く「話を聞いて前向きになれ

た」「このような場所を知れて気持ちが楽になった」という声がほとんどで、涙される人もいた。当事者家族は、相談できる場や情報を得る機会が少ないという現状を改めて痛感した。また、1 度参加した人が次回以降も申込みなど、複数回参加する人が多く、各回の満足度が高かったといえる。複数回参加してもらえたことで、当事者家族が今後も相談ができるコミュニティを作ることに繋がった。今事業では、目的であった「当事者家族が障害への理解を深め、悩みを共有できる仲間やコミュニティを作ること」がおおむね達成されたといえる。「仲間作り」という面では、計 4 回の講座だけでは、家族同士が新たに仲間や友人を作ることは難しかった。しかし、講座以外でも当団体へ来られた人や当団体会員になられた人がおり、社会参加の機会に繋がったといえる。

・幅広い広報ができたおかげで、これまで情報を届けることができなかった施設などへもチラシを送ることができ、集客に繋がった。当団体の存在を初めて知った医療・福祉従事者からの問合せや参加もあり、新たな繋がりができた。脳卒中障害に関わる人たちの連携が強化されることは、当事者が暮らしやすい地域を目指す上で重要なことであると考えます。また、これまでは情報を届けることができなかった居宅介護支援事業所へもチラシを送ることができたということもあり、ケアマネジャーまたはケアマネジャー経由での問合せが多かった。利用者へ直接情報が届きやすいということやケアマネジャー自身が当事者・家族の実情を知る機会を求めていることを知ることができ、今後の広報や企画の参考となった。

成果の広報・公表

各回開催後に、当団体ホームページ、Facebook、会報誌「ドリームニュース」へ活動報告として、講座内容や参加者の様子を写真とともに掲載した。

今後の展開

・アットホームな雰囲気や、参加者が積極的に質問や相談ができる環境は、小規模な講座だからこそ作ることができたものであり、今後も、今回のような講座を実施したいと考えている。今事業で成し遂げられなかった「家族同士の仲間作り」を実現するためにも、継続して家族向けのイベントやサロンを実施することが重要だと考える。また、展望の一つであった「同じ立場の家族から“支えられる”経験をした家族が、今度は自分が悩みを抱える家族を“支える”側になる」ためのきっかけ作りにもなると考える。しかし、自己負担のみでの開催は難しく、助成金の獲得や参加費増額が必要な点が、検討すべき問題である。

・今事業を通して、医療・福祉事業者との新たな繋がりができた。脳卒中障害に関わる人たちの連携を強化していくために、今後も、各機関と連携を図り、情報共有などを行っていく。また、専門家も当事者・家族の実情を知る機会などを求めていることを知り、そのようなイベント企画を行いたい。